

# MAIL MAGAZINE

メールマガジン

## 「思い出すシリーズ～2012年山西省編～」

JSC 貿易部ニュース 中国編



いつもお世話になっております。当メルマガに目を通して頂いてありがとうございます。

諸般の事情によりまして、先月号メルマガより2012年の渡航記を再構成してお送りしております。先月の河北省編に引き続き、今回はお隣の山西省編です。御笑覧ください。

～・～

中国滞在4日目。

出張前に買ってきたヒートテックのお陰で、氷点下の世界でも比較的健康的に過ごせております。ありがとうございます。

本日は、省をまたいで移動です。次の目的地までおよそ200km。

まず、【北大青】を採掘している、山西省陽泉市を目指します。

道中、地元で非常に有名だというお寺の近くを通りかかり、スー社長が「今回の出張の無事を祈るために行ってみましょう」と言うので立ち寄ることに。

「え、いまさら？」と思わないでもなかつたのですが、今から思えば、おそらく長い道中、私が退屈しないように気を利かせてくれたのだと思います。ありがとうございます。



冒頭の写真もこのお寺からの眺めですが、なかなか広い境内で小一時間ほどお参りをしながら、写真を互いに撮り合ったり、狛犬の頭を撫でたりと、おっさん4人でひと時のレクリエーションタイムを過ごします。



スー社長から「この階段、目をつむって下まで降りて、そのまま正面の壁の“佛”的字にタッチできれば願いが叶うと言われていますよ。やってみますか？」との提案。

皆で顔を見合わせて「いくらなんでも高すぎる&傾斜が急すぎる…」とアイコンタクトをし、階段の一段目から挑戦しました（当然のごとく成功）。



参拝後はお寺近くのお店で早めの昼食として精進料理っぽい食事を頂き、再出発です。

(精進料理っぽい食事)

当時、まだ高速道路がなかったのか近道だったのかは定かではないですが、ひたすら下の写真のような風景の中を車で駆け抜けていきます。葉の生えた樹木が少なく険しく切り立った山の間を進んでいると『黄土』の世界観を感じます。



まだ明るいうちに目的地付近に着いたようで、路肩に北大青らしい石のコッパが増えてきます。

実は、私自身はこの丁場に来るのは二度目で、一度目の訪問時（2005年）には近くの村で一泊したのですが、当時はまだ裸の幼な子が鶏を追っかけて走り

回っているような、田舎然とした面影のある場所でしたが、7年の歳月を経てかなり発展したようです。車の数も増え新しい建物（ビルとまではいかない）も増えています。

北大青丁場動画→<https://www.youtube.com/watch?v=WufADhNpQ3s>

一般的に【北大青】は、目が少し粗く白の地の部分がはっきりしている石を指し、【北大黒】は目が細かく地の色も灰色を帯びている石のことを指すことが多いですが、下の航空写真を見ていただければわかりますように、北大青・黒は1つの山の表と裏で、実際にはその中間的な石も多く存在します（グラデーションになっています）。

直径1キロメートルくらいの中に多数の掘り口があり、全体での年間採掘量は1万立米ほど。そのうち墓石材として福建省に運ばれるのが、その年の石の状態にもよりますが20%前後、他に建材用途としても山東省などの石材工場に送られています。



この【北大青・北大黒】も、他の地域と同様に環境保護政策の影響を受け一時存続を危ぶまれておりましたが、無事検査をクリアしたようで、2020年は新しい原石が福建省のパートナー工場に入ってきております。担当営業員まで、お気軽にお問合せくださいませ！

河北山崎よりは少し南に位置しており、寒さは若干和らいでいましたが、訪問時は既に12月に入っており、日陰の岩壁には下の写真のようにツララが出来ておりました。丁場はそろそろ仕事じまいを始めて翌年の春まで採掘は一時休止になります。採掘に従事している人は内陸部からの出稼ぎ労働者が多いため、ちょうど春節と重なり田舎に帰郷するのでしょうかね。



我々も暗くなる前に、今晚の宿泊地である太原市に向け車を走らせます。

翌日は国内線に搭乗し、一気に次の目的地まで南下します。

次回、湖南省編に続く予定です。

今月は以上です。

2020/09/01